

令和5年度 第1回沖縄県航空関連産業クラスター形成加速会議 議事概要

1 開催日時 令和5年10月25日(水) 13:00-14:30頃

2 開催場所 県庁6階 第2特別会議室

3 出席者 別添のとおり

4 次第

- (1) 開会、構成員紹介
- (2) 商工労働部長あいさつ
- (3) 議長・副議長の互選
- (4) 資料説明
- (5) 議事

ア アクションプランにおける基本戦略の進捗や課題の把握

イ 沖縄の強みを活かした取組に関する意見交換

5 議事

航空関連クラスター形成アクションプラン(以下「アクションプラン」という。)における基本戦略の進捗と沖縄の強みを活かした取組に関する意見交換

(1) 事務局から、アクションプランにおける基本戦略の進捗や課題と、沖縄の強みを活かした取組に関する説明を行った。

(2) 出席者から次のような発言があった。

ア 沖縄の優位性を記載している内容が、本当に沖縄の航空関連産業クラスター形成に向けた優位性になっているのか、もう一度議論する必要がある。なぜ沖縄に航空関連産業クラスターが必要なのか、その優位性は何なのか、航空関連産業クラスターの拡大に向けて、今の課題を明らかにして、何をやっていくのかを議論し、まとめていく必要がある。

イ 沖縄の近隣には巨大なMROビジネスの競合が存在しており、沖縄で航空関連産業クラスターを形成するには、顧客側が沖縄に魅力を感じる仕組みが必要である。その基本的な基盤となる那覇空港の機能強化が必要となる。

ウ 航空業界、特に整備業界が現在直面しているのは、人材確保の問題である。国内の労働人口全体が縮小している中で、沖縄県は若年層の人口の割合が比較的多く、出生率も高いことから、今後のクラスター形成を担う人材を確保しながら企業を誘致することが大切になっていく。企業を誘致してから人材を育てるのでは遅い。

エ 県内ものづくり産業との連携は、技術的側面や企業側において国やメーカーの規制をクリアするための労力や投資といった側面で現状厳しいところ。なお、スタンド類などの施設・設備系やツールの制作は、すでに製造を委託しており、かなり広がっている。

オ MROを中心に、パーツなど周辺産業の裾野を広げていくことが非常に重要である。パーツの開発や整備ができるのであれば、スタートアップにも同じ需要がある。

カ テキサスのサンアントニオはMROを中心とした企業誘致に成功している。サンアントニオは生活費が安く住みやすく、テキサス大学のサウスウエスト校が技術的な面で支えているなど、エコシステムができており、社会的に受け入れる土壌がある。この事例を沖縄でも参考にして、大きい絵を描いたうえで、実現を目指すのはどうか。国や内閣府の動きに対してのロビイングも非常に有効な手立てになる。

キ 航空関連産業クラスターの形成は、沖縄21世紀ビジョン、アジア経済戦略構想、新・沖縄21世紀ビジョン基本計画等で沖縄県として大きく打ち出している。航空機整備事業を頂点として、パーツセンターやエンジン整備、装備品整備などの裾野産業を広げ、結果として、ものづくり産業の集積を図ることで、沖縄県の経済に貢献する趣旨である。沖縄の魅力をもっと深掘りしながら、しっかりと取り組むべきである。

ク 長期的な視点でビックピクチャーを描き、沖縄の用地や誘致条件などの魅力を整理し、そこに向かうプロセスをアクションプランに盛り込みながら、一番重要な人材育成をコツコツと進めていくシナリオをしっかりと打ち出したうえで、より具体的なアクションプランを作っていくべきである。

(3) 構成員の意見を踏まえて、議長から、①人材育成の重要性、②航空機整備事業の今後のビジネス規模拡大につながる取組の強化、③新たな取組、それを支える環境づくりに関する提案、④先行事例の調査について、4点総括があった。

(4) 第1回会議での構成員の意見を踏まえて、事務局でアクションプランの取組を推進する改善案を作成し、次回の会議で意見交換することとなった。

6 会議の公開・非公開の別 公開（冒頭のみ）

令和5年11月24日(金)

〔商工労働部企業立地推進課〕